

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和8年度 第1回行政評価委員会	
開催日時	令和8年 4月22日(水) 午後7時00分から 午後9時00分まで	
開催場所	市役所 本館2階 大会議室	
委員名	(1) 出席委員 加留部貴行、木本圭子、大石くみ、芹野千佳子、中川孝晃、山下耕治 (2) 欠席委員 山下永子	
所管課職員職氏名	福津市長 事務局 経営企画部長 経営企画部経営戦略課長 経営企画部経営戦略課経営戦略係長 経営企画部経営戦略課経営戦略係 担当 経営企画部経営戦略課長 経営企画部経営戦略課企業誘致係長	福井崇郎 花田積 向井泰博 古賀雅典 加藤慎太郎 向井泰博（再掲） 福原雄貴
会 議	議 題 (内 容)	1 市長あいさつ 2 会長あいさつ 3 諮問 4 今年度のスケジュール説明 5 第3次福津市行財政改革大綱 実施計画に係る令和7年度評価の事後報告 ・「No.15 宮司公民館の廃止」 ・「No.19 福祉会館（潮湯の里夕陽館）の民営化」 ・「No.29 企業版ふるさと納税による新たな財源の確保（税控除制度の活用）」 6 臨時行財政運営方針等、現在の市政運営状況について ・令和7年度 福津市中期財政見通し ・臨時行財政運営方針 ・厳しい財政状況を乗り越えるための市政方針（市長メッセージ）
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	3名

	資料の名称	<p>【資料 1】 令和 8 年度スケジュール</p> <p>【資料 2】 (未定稿) し尿処理料金補助事業見直し (第 3 次行革大綱実施計画)</p> <p>【資料 3 - 1】 福津市中期財政見通し (令和 7 年 1 2 月)</p> <p>【資料 3 - 2】 臨時行財政運営方針</p> <p>【資料 3 - 3】 厳しい財政状況を乗り越えるための市政方針 (市長メッセージ)</p> <p>【資料 3 - 4】 臨時行財政運営方針補足資料【当日配布】</p> <p>【資料 4 - 1】 宮司公民館 (R7 年度答申に対する事後報告)【当日配布】</p> <p>【資料 4 - 2】 夕陽館 (R7 年度答申に対する事後報告)【当日配布】</p> <p>【資料 4 - 3】 企業版ふるさと納税 (R7 年度答申に対する事後報告)【当日配布】</p> <p>【資料 4 - 4】 R7 最終答申_行革分抜粋 (行政評価委員会)【当日配布】</p>
	会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録 記録内容の確認方法
	その他の必要事項	

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

第1回 会議録

※略称に係る補足

行革大綱・・・福津市行財政改革大綱

総合戦略・・・福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略

本市・・・福津市

災害・・・当会議録では主に、令和7年8月に発生した記録的な大雨による大規模災害を指す。

事務局

(開始に先立ち、配布資料の確認、委員構成説明、会議成立の確認を行った。また、事務局が本年度の会議の公開可否について伺い、会長が公開可と決定した。)

～傍聴人入室～

1 市長あいさつ

市長

昨年度の行政評価委員会では、単なる仕分けに留まらない、対話型の評価の場として、様々な視点から貴重なご意見を賜ったことを、担当課等を通じ私も聞き及んでいる。さらに令和7年度の最終回では私も同席し、そうしたご意見を委員の皆さまの想いとともには聴いた。

今年度は「第3次行革大綱の終わり」「第3期総合戦略の始まり」という大きく2つの節目を迎える。それに伴い、例年よりも丁寧な説明を行うため、前年度までとは異なる流れとなる旨予めご了承ください。また、各所でご活躍される皆さまから、そのご経験に裏打ちされる提言を引き続き頂戴したく思う。どうぞよろしくお願いしたい。

2 会長あいさつ

会長

令和7年度に選任されたメンバーで、引き続き本市の在り様に関して外部の視点から提言できるよう、対話型の議論を行っていきたい。

世情が時々刻々と変化するなか、組織面や財政面など、様々な面で正解が無い時代に突入している。あらゆる自治体が諸課題を抱えつつも、少しでも良い方向に向くよう試行錯誤しており、福津市もその1つだと拝察する。他自治体との共通項を踏まえつつ、本市の強み・弱みも認識しながら、何かしら前進できるような議論を展開できればと思う。

3 諮問

(市長から会長へ諮問書の受け渡し)

～市長退室～

4 今年度のスケジュール説明

事務局

(【資料1】説明)

5 第3次福津市行財政改革大綱 実施計画に係る令和7年度評価の事後報告

担当

(【資料4-1】～【資料4-4】説明)

会長

では、委員から意見・感想などあるか。

-----**No.15 宮司公民館の廃止**-----

委員

立派な自治公民館が建設されており、住民も満足されているものと思う。宮司生産森林組合も、返却後の跡地を駐車場として活用したいと考えているとのことで、流れとしてはイメージしやすい。

-----**No.19 福祉会館（潮湯の里夕陽館）の民営化**-----

委員

これまでの経緯－夕陽館を核に人流を生み出していくのであれば、DMOや観光協会との連携だけではまだ弱いと考える。せっかく民間の力を活用するので、撤退とならないよう、市としてもう少し主体的に動いてもらえれば。

委員

本件は第3セクター（地方公共団体が出資を行う法人等）ではないのか。位置付けを確認したい。

担当

市からの出資はない。市が所有権を有したまま、管理運営は公募を経て選定された事業者に行ってもらう形になるかと思う。

委員

他方、市として何もしないわけではなく、経済効果を上手く高めていくための仕掛けづくりという面で、関与は必要と考えている。

委員

夕陽館のリニューアルに際し、周辺地域への賑わいにも寄与していきたいそうである。

委員

今後の夕陽館に市がどのように関わっていくかの議論であるが、例えば本市とイオンモール福津の関係性は一地方公共団体と一企業であるが、良い意味でお互いに利用しあっていると思う。

会長

一企業との連携を考える手がかりとして他には、宮地嶽神社の参道に位置するネオラマートは、市外からの来店者のほうが多かったり、一方で海岸沿いのカフェは最近地元民の利用が多かったりといった情報も耳にする。宗像王丸・天然温泉のように、夕陽館にも市内外から人が集まり、市が適宜協力することで、従前の福祉施設とのギャップが少しでも埋まったらよいかと。

昨年度も議論になったが、本件は長らく持続が懸念されていた中で一つの着地点に落ち着いたものかと思う。先に委員がおっしゃったギャップの緩和についても留意しつつ、事業として成り立っていけるか、地元と良い関係が築いていけるかなどの面で見守りながら、夕陽館の復活に繋がればと願う。

-----**No.29 企業版ふるさと納税による新たな財源の確保（税控除制度の活用）**-----

委員

マッチング支援による営業に関し、成果や気づきはあったか。

担当

令和7年度は寄附総額310万円のうち、約200万円が委託業者経由であり、新たな企業の結びつきがあったと捉えられる。一方、残りは市へ直接申し出があったものである。総じて、マッチング支援による効果があったものと判断している。

会長

それを踏まえ今年度は裾野を広げ、複数社との契約を予定している。

委託事業者を増やすことに関しては、「委託による寄附額の増加」と「委託の導入に係る経費の増加」の双方を考慮し、実際の実入りも見極めながら、検討を続けていただきたい。

6 臨時行財政運営方針等、現在の市政運営状況について

担当

（【資料3-1】～【資料3-4】説明）

会長

委員から意見や感想、確認事項等ないか。

委員	<p>具体的な数字を示してもらい、余裕が無い中で災害対応等も行っていくとのことで、厳しい状況は概ね理解した。行財政改革に関しては、これまでの流れは汲みつつも、より自由度が無くなってきたものと拝察する。したがって、今まで以上に取り組みを加速させる必要があるかと。”守り”の面で言えば、個々の事業をいかに優先度付けし削減していけるか、”攻め”の観点では優先度付けは然り、「稼ぐ」の試験施行ではない実践的な段階に移っていかなければならないと感じた。</p>
委員	<p>産学官連携について言及していたが、入りと出、いずれを検討するにしても、先の夕陽館や企業版ふるさと納税の事例と同様、外の民間企業・団体との関わり方を考えていく必要がある。現状キッカケラボでもある程度企業とのつながりはできているものの、より本格的な部分を担うには厳しいと思う。しかし、今年度から経営戦略課企業誘致係も新設されたとのことで、外との連携を組織的に連携していくような考えはいかがか。</p> <p>また、民間目線では「稼ぐまち」と聞いた際、稼ぐ主体が市民なのか、携わる民間側なのか判然とせず、民間が関われる余地があるのかと思われる可能性もある。民間へのより良いはたらきかけも模索していただきたい。</p>
担当	<p>企業誘致係は、【資料3-2】p5の基本方針⑩に資する部分を担っていくべきものとする。同係は、企業版ふるさと納税や包括連携協定なども所掌しており、様々な場面で企業ときっかけを作っていくという点で、経営感覚を持った組織改革の一つになったと思う。</p> <p>勿論、同係だけではなく、先に挙げた夕陽館や、福岡漁港小型船舶係留等施設を民間に運営してもらうなどの取り組みも、関係各課で進めている。先に申した包括連携協定ではない、個別の協定一例えば防災に関する協定等も関係課で結んでいる。このように、企業誘致係含め全庁的に基本方針⑩に資するよう取り組んでいるところである。</p>
委員	<p>財政収支については、多くの他自治体でも同様の課題を抱えている。入りを増やすのは、地方自治体の努力では如何ともし難い部分がある。であれば歳出のカットが必要になってくるが、【資料3-1】p10を見ても自治体の裁量で削減できるものは多くない。投資的経費に関しても、施設の老朽化等もあって大きく減らせない。となると現実的なのは、補助費等や繰出金など一般会計から外郭団体等に流れるお金を見直すことではないか。</p>
委員	<p>市民目線だと「なんとなく福津市は大変らしいよ」というのはあちこちで耳にする。市内でも災害復旧できてない場所があったり、教育環境における不安が残っていたりする。一般市民が「本市は今頑張っている」と実感・安心できるような見せ方ができると良いと感じた。</p>
委員	<p>私も「本市は人口増に伴って歳入も増えているのでは」という声をよく聞くが、「人口構造に着目すれば、生産年齢人口（働き手となり得る15～64歳の人数）の割合は減少し、扶助費の増加に係る年少人口（14歳以下人口）及び老年人口（65歳以上人口）の割合が増加している」旨を伝えるとご存じないかたも多く、本市の現状と実際の市民の認識との間にずれを感じた。</p> <p>社会教育に関する会議に出席した際も度々「お金が無いからできない」となるが、それでは間に合わない。厳しい財政状況を前提に、3本柱の一つ「次世代を育む教育環境の整備」に取り組むには、人的環境の整備や既存施設の効果的な利活用も同時並行で進めていくべきだ。教育委員会と市長部局間の連携を密にし、市民のポジティブシンキングに繋がるアプローチをしていただければ。</p>

会長

落ち着いて議論するにあたり、まずは現状を素直に受け止めることが大切である。本市は行政にありがちな「出づるを量って入るを決す」の傾向になっているため、本来の「入るを量って出づるを為す」に立ち返る必要があるのではないか。例えば「収納率は上がってきているだろうか」といった本来の”入る”の部分にも十分に意識を傾け、本来入るべきものが入ってきていない状況があれば解消して欲しい。

また、市外の人々に福津市に関心を持ってもらい、域内へのお金の流れを作る上では、誰が「稼ぐ」主体であれ、どのような投資を呼び込むかが重要と思われる。例えば、福岡市の天神ビッグバンのように、経営主体の規模を問わず、主として民間の財源で物事が進む状態であろう。福岡市は航空法などの規制緩和を進めるとともに、期限を決めることと引き換えに優遇措置を準備することで地域全体の計画性を生むという官ができる役割に特化して民間投資を呼び込んだ。これまでの話でも挙げたタイムラグの問題も、行政側が周到なストーリーを描き取り組んでいくことで、解決に寄与するのではないだろうか。

もう一点、【資料3-1】p18の「(1)総人件費の抑制」に関連し、例えばある大手企業は昨今人手不足が叫ばれるなか、来年の新規採用者数を抑制する考えを打ち出している。ここ数年のAI活用ノウハウの蓄積により、本当に人が必要な箇所を見極められるようになったからだという。「公でしかできないもの以外で、人がやらなくて済むことはしない」の精査を徹底し、適正規模で行っていくことが肝要である。

その他
事務局
会長

(次回の開催日程の伝達)
以上で閉会する。